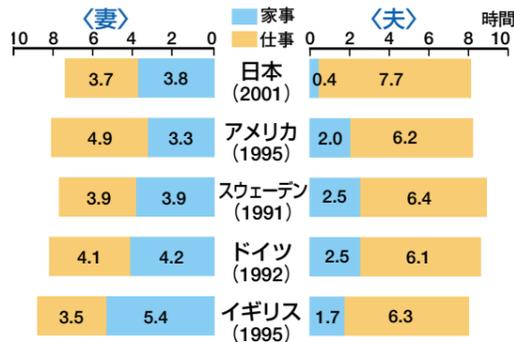




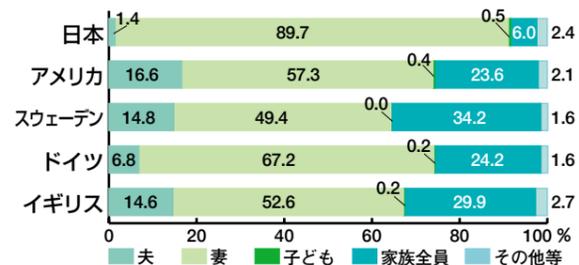
育児期の共働き夫婦における夫の家事時間

図1 育児期の共働き夫婦の家事・仕事時間



資料/内閣府男女共同参画白書(平成15年)

図2 家事分担の状況(食事の支度)



資料/内閣府「男女共同参画社会に関する国際比較調査」(平成14年)

家事分担の理想と現実

今、若い世代を中心に「家事は男女で担う」という人が増えています。内閣府の調査(平成15年)では、共働き夫婦の理想の家事分担は「半分ずつ」と答えた人が約半数を占めています。

しかし、実際の家事分担は理想とはほど遠いようです。

図1の、育児期の共働き夫婦の一日の家事時間を比較した調査によると、妻が3時間48分であるのに対し、夫はわずか24分という結果でした。

さらにその数字を国際比較してみると、夫の家事時間が5か国中最も長いのがスウェーデンとドイツの2時間30分、次いでアメリカの2時間、イギリスの1時間42分、日本がいかに少ないかがわかります。

家事は家族みんなの仕事

日本の夫の家事時間が少ない要因の一つに、労働時間が長いことがあげられます。

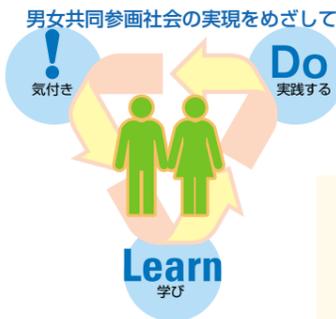
前述のスウェーデン、ドイツ、アメリカ、イギリスと比較すると、どの国も6時間を少し上回る程度であるのに対し、日本は7時間42分と長く、家事をしたくても時間的にゆとりがないのが実情です。

さらに、図2の家庭内での家事分担の状況を詳しくみてみると、日本では食事の支度は妻が9割近く担っているのに対し、欧米諸国では妻の分担は半分程度で、家族全員で担っている割合が高くなっています。

健康で快適な毎日を送るためには、家事労働は欠かせない仕事です。一人ひとりがいきいきと自立した生活を送るためには、家族みんなが家事を担っていくことが大切です。

学んでいます！さいたま市 男性短期カレッジ

パートナーシップさいたまで開催した「さいたま市男性短期カレッジ(全5回)」では、男性が自分の生き方を問い直し、これからの暮らしや社会を新たな視点で考えるきっかけとなるような学習をしました。



男性の意識改革が必須 少子化抑止の処方箋は「男女共同参画」の推進

近年、盛んに全国の自治体で男性向けの男女共同参画学習が行われるようになりましたが、その中身は「料理教室」が主流になっているようです。男性の家事参加を促す早道だと考えられているからでしょう。これも男性に求められている重要な課題の一つです。

「パートナーシップさいたま」で実施した、初の男性向け講座「さいたま市男性短期カレッジ」では男性の生き方に焦点を当て、参加者と講師がともに考え合うというスタイルで学習を進めました。これまで「男性ならこうであって当然」と思っていた事柄にたいして、それはどうしてそうなっているのか、そこに何らかの不都合がないかなど、歴史的・文化的・社会的な背景を学びつつ意見交換をしました。

いろいろ学んで行動・実践に一步踏み出す女性たちは多く、ぜひ男性にも性別役割分業の生き難さを理解してほしいと言うのをよく聞きます。しかし仕事中心の男性たちが学ぶ機会は残念ながら少ないのが現状です。

男女双方で子どもを産み育て、男女双方が職業生活を継続できる社会、それが少子化を抑止していることはスウェーデンやフランスなどの例に見るまでもありません。それには「男性は仕事・女性は家事育児」という性別役割分業に固執しない生き方ができるよう、いま、特に男性の意識改革が求められています。

パートナーシップさいたま事業コーディネーター 下村美恵子

平成16年度講座内容

第1回 「これからの生き方をきり拓く —男女共同参画のススメ」
第2回 コーヒーブレイク —肩書きナシの出会いを愉しもう
第3回 ボクは高校の保健体育教師だった —スポーツが「男をつくってきた」?
第4回 めざめる女、つぶやく男、すれ違う尺度 —結婚・離婚・未婚の現状から
第5回 21世紀型イイ男の条件とは —話し上手で聞き上手、そして…

受講者の感想

このようなテーマを本気で考えたことは今までなかったので、大変よい機会を頂いた。妻を亡くしたその後の夫の存命平均5年、夫を亡くした妻は17年には絶句した。改めて驚き、感心した。(第1回50代)

「男に生まれてソンをしたと思ったこと、不都合だったこと、イヤだなあと思ったことは何か?」という問いに対して、何も思いつかなかったということは、いかに女性の犠牲の上に男性が自覚もなく生きているかということを実感させられた。(第2回50代)

スポーツ発祥時から、ルールが白人男性に有利に作られてきたとは知らなかった。いまは山歩きなど、脱ジェンダーに向かっていると思う。(第3回60代)

中高年離婚のビデオに軽い衝撃を受けた。その夫の姿はまさに自分の姿、何かしなければならぬ、行動を起こさなければいけないと思った。(第4回50代)

コミュニケーションの大切さが分かった。自分も家事その他に参加して、家族関係を見直していかなくてはと考えた。大変参考になった。(第5回60代)

問合せ先 ●さいたま市男女共同参画推進センター「パートナーシップさいたま」電話 642-8107 FAX 643-5801

通信員テーブル

男女が共に生きる社会に向けて「身近なテーマ」から話しあってもらうコーナーです。

テーマ

「コミュニケーション不足」どう解消していますか?

【出席者】 *写真左から

廣瀬浩子さん 岡本精文さん 大間栄美さん 増田啓子さん

大間 最近、イライラしたり、疲れている子どもが多いのは、親子のコミュニケーションがとれていない、つまり、十分に自分の気持ちを受け止めてもらっていないからだと思うのです。

岡本 そもそもコミュニケーションってなんだろうと思って調べてみたら、ある大学の先生の著書に「……心を通

じ合わせる」という一文があったのです。まさにこれだと思いました。大間 心を通じ合わせるの、時間じゃないと思うのです。私は働いているので子どもと過ごす時間が限られているのですが、夜一緒にお茶を飲みながらその日あった出来事を聞くようにしています。

増田 うちの20代から70代が共に暮らす3世代家族なので、時には意見が合わず気まづくなることあるんです。それでも家族なのだからと、食事はみんなで食べるようにしてきました。

大間 意見が合わなくてもいいのでは。自分と違う価値観があるということを知って、そこからコミュニケーシ



ョンが始まると思うので。

岡本 極端なことをいえば、一緒に食事をするだけでもいいと思う。顔を合わせなければ相手のことが全然わからないわけですから。

廣瀬 夫の帰りが遅いときに、つい子どもに当たってしまった場合など、逃げ場がないのでお互いにしんどくなります。そんな時、おばあちゃんやおじいちゃんがいってくれたらと思いました。大勢で食事ができるっていいですね。

増田 そうですね。とてもよかったです。

岡本 これからは地域とのつながりも大切だと思うのですが……

廣瀬 私は13年間働いたのですが、仕

事を辞めて肩書のない自分に戻ったとき、初めて地域でのコミュニケーションの大切さを痛感しました。

岡本 私は定年後母の介護をしているのですが、介護に掛かり切りだとストレスがたまり、一時体調を崩しました。そこで地域のテニスサークルに参加することにしたのですが、それが何よりのストレス発散になっています。

廣瀬 私もテニスサークルに参加したり、子ども会の役員を引き受けたりすることが、地域とのコミュニケーションづくりにも役立っています。

大間 うちの子どもが通っている学童

保育の行事には、父親の参加が半数くらいあります。男性の場合、そんな場を利用してつきあいを広げておくといいですね。

廣瀬 でも時には、近所づきあいが、難しいと感じるときがありませんか。増田 そうですね。私はうまくつきあう方法として、どなたにもあいさつをするように心がけています。

大間 あいさつは大事ですね。私は近所の子どもにも声をかけるようにしています。

岡本 言葉に出さないと気持ちはなかなか伝わらないと思うのです。コミュニケーションの第一歩は、まず、声をかけあうことから始まると思います。